

## 第27回 向日市上下水道事業懇談会 議事録

日 時 : 平成27年8月4日(火) 午前10時から正午まで  
場 所 : 向日市役所 大会議室(3階)  
出席者 :  
(委員) 吉川会長他9名(全員出席)  
(事務局) 栃下上下水道部長他13名  
傍 聴 : 2名

### 1 あいさつ

### 2 議事

#### 【平成27年度水道事業会計予算について】

委員 企業会計を導入した会計処理で詳細な数字が上がってきており、理解するのが非常に難しい。

委員 以前の懇談会から提出した意見書には、耐震化や将来に持続させていく上でのメンテナンスをもっと考慮してくださいとあったが、府からの原資をすべて水道料金の引き下げに充てられた。そんな風に政治で決めてしまうのであれば、この懇談会は要らないのではないか。

それから、資金については、それだけの現金があるという意味か。

事務局 キャッシュフローに掲載している現金の期末残高は8億3千万円ですが、未払金、前受金など今後支払わなければならないものも含んでおり、内部留保資金としては約7億円である。現金の他、一部定期預金で運用しています。

事務局 少しでも今後の更新費用においておいたらどうかというご指摘は承知しています。今回、全て料金の引き下げに充てることになりましたが、これまでから、人件費の削減や浄水場施設の一元化など経費削減に取り組んできており、引き続き経営努力してまいります。

平成32年度に京都府の料金改定が予定されており、今後についても委員の皆様からご意見をいただきたく、このような形で懇談会をお願いしたいと考えています。

委員 老朽化などの問題に対し、全体の計画と進捗についてご提示いただきたい。また、補助事業が少ないのでは。償還残高が21億円あり、今後増えていくという説明であった。良質資金へ

事務局 の乗り換えを以前意見したが、その後の努力についてどうか。

アセットマネジメントをもとにローリングしていきながら、資金をできるだけ使わないよう計画的にやって参りたい。

国庫補助金については、少しでも補助対象を広げて活用できるように国に要望しています。現在、限られた範囲で活用しているところです。

起債の残高については、利率5%以上のものは、平成19年に補償金なしの国の繰り上げ償還制度により、全て借り換えています。現在4%台が2本、残りは比較的金利の安い2%以下の企業債です。

今借り換えようとする、本来払うべき利息と今の金利で借りた場合の差額を補償金として国に払わなければならない、メリットがないので借り換えしておりません。

委員 命に関わる水の重大な課題について、全国的に同じ悩みを抱えている。市の努力もよくわかるが、周辺自治体と共同歩調をとった取り組みを。

事務局 今年5月に日本水道協会の京都府支部総会がイオンモール京都桂川のホールで開催され、本市も開催市として携わりました。総会では府内で各水道事業者がどのような苦勞をし、どのような要望をしていくかなどの議題について話し合いました。また、乙訓2市1町では府営水道受水市町の支部単位の協議会も設けており、様々な形で議論を進めています。

委員 有形固定資産が取得原価ベースで80億円あるが、減価償却しても、埋設管などは実際にはそれ以上に腐食していたりして、掘ってみないとわからない。

黒字になるのは新会計基準の計算の仕方、ロジックではないか。実態は以前のように5億円の赤字ではなかったか。

委員 実際どれくらいの資産として水道施設が存続しているのかということが一番重要なところである。

委員 一市民の感覚として水道料金の値下げはうれしいが、これだけ借金があることを知ってしまうと喜べない。専門家のご意見と同様に市民感覚を大切にしてほしい。

#### 【平成27年度下水道事業特別会計予算について】

委員 いろは呑龍トンネル南幹線の工事進捗状況はどうか。

事務局 洛西浄化センターの立坑約20メートルを掘り終えました。現在は、国道171号線地下を4キロ北上する横のトンネルを掘る機械を製作中であり、完成後、1～2年かけて掘る予定です。

【新水道ビジョン・新下水道ビジョンについて】

委員 ビジョンは国が夢のある話を描くものだが、実現するためにはお金がいる。今後、料金収入が減っていくとすれば、バランスを欠いたビジョンになっているのではないか。

委員 ビジョンについて、府や周辺自治体の動向などあれば。  
事務局 日本下水道協会の総会では、交付金の拡充、下水道施設の長寿命化・老朽化対策及び地震対策の充実、地方債制度の改善や地方交付税措置の充実などが議題に挙がりました。

事務局 国の方針としては、お金をかけるというよりは、マネジメントをしっかりと行い、安全については水安全計画を立て、しっかりと安全管理するということだと考えます。  
また、強靱化については、優先順位を決めて耐震化を進める計画を立てています。  
持続については、平準化し、長寿命化しながらアセットマネジメントを徹底せよということで、市としては計画に沿って進めています。

委員 二つのビジョンは、そのまま向日市に置き換えることが非常に厳しいものがある。向日市は雨水事業について独特のことをやっているのではないかと。  
次回、市の取り組みについて示してほしい。

委員 京都市の浄水場のように施設集約について考えはあるか。  
事務局 平成19年度に上植野浄水場と物集女西浄水場を一元化し、物集女西浄水場に集約済みです。

委員 人口減少による収入と支出の減少が、全体にどのように影響するか、次回に教えてほしい。

委員 資料について、ポイントを2ページくらいにまとめ、グラフなどを入れてわかりやすく示してほしい。  
事務局 次回は予算書とは別に、工夫して資料をお示ししたい。

事務局 下水道事業の法適用化について。本年1月に国から通知があり、下水道事業について平成32年度から公営企業会計に移行することになりました。移行までに4年半ほどあるが、準備に3年ほどかかるといわれており、本市においても来年度以降予算を計上し、準備にかかりたいと考えている。法適用化までのスケジュールについては今後の懇談会でお示ししたい。